

予防接種の予定日を 設定しておきましょう

早くから赤ちゃんを守り、予防できる深刻な感染症になるリスクを避けるためには、予防接種を遅れずに受けることが大切です。

赤ちゃんの次の
予防接種がいつ
かを調べるには
[health.nsw.gov.
au/vaccinate](http://health.nsw.gov.au/vaccinate)
にあるNSW州予
防接種スケジュール
でご確認ください。
い。



ブルーブック (お子さん個人の保健医療記録)

予防接種を受ける際は毎回、必ずお子さんのブルーブックを持っていき、かかりつけ医か看護師に受けた予防接種を記録してもらおうようにしましょう。



より詳しい情報は

NSW 州保健省

health.nsw.gov.au/immunisation

オーストラリア連邦政府保健省

health.gov.au/health-topics/immunisation

MumBubVax

mumbubvax.org.au/Hepatitis-B-vaccine

NSW 州 B 型肝炎ファクトシート

[health.nsw.gov.au/Infectious/factsheets/
Pages/Hepatitis_B.aspx](http://health.nsw.gov.au/Infectious/factsheets/Pages/Hepatitis_B.aspx)

オーストラリア予防接種登録簿

[servicesaustralia.gov.au/individuals/
services/medicare/australian-
immunisation-register](http://servicesaustralia.gov.au/individuals/services/medicare/australian-immunisation-register)

NSW Health

B型肝炎 予防接種

新生児向け



B型肝炎

B型肝炎ウイルスは肝硬変や肝臓がんなど、長期にわたる肝障害の原因になることがあります。乳児がB型肝炎に感染した場合には、生涯にわたって慢性B型肝炎ウイルス感染症を患うことになる確率は90%にのぼります。

B型肝炎は非常に感染力が強く、次の経路で簡単に感染が広がります：

- 感染者の母親から出産時に感染する母子感染
- 不潔なはりやカミソリなどで皮膚を指した場合
- 感染者の血や、すり傷や切り傷の傷口に直接接触した場合
- 感染者とのセックス

妊娠時の検査

すべての妊婦は妊娠中に行われる通常の検査の一環としてB型肝炎の検査を受けるはずですが、この検査結果が陽性だった場合には、赤ちゃんの感染予防と慢性肝障害のリスク回避のために治療が必要となります。妊婦自身にも治療が勧められる場合もあります。

予防

B型肝炎ワクチンはオーストラリアでは1980年代初期から使われており、この病気の予防には予防接種を受けることが一番です。

新生児用のB型肝炎ワクチン

すべての新生児には次の目的で出生時にB型肝炎ワクチンが提供されます：

- 感染者の母親から新生児への感染を予防するため。母親が感染していることを知らない場合もあります。
- 生後数ヵ月の間、同居している感染者や感染している可能性のある他の人たちからの感染を予防するため。

B型肝炎予防接種スケジュール

新生児には出生時から生後7日以内に初回のB型肝炎ワクチンを投与し、その後さらに3回(生後6週間、生後4ヵ月、生後6ヵ月)ワクチンを投与することが推奨されています。

B型肝炎ワクチンの安全性

これまでこの予防接種を広範囲にわたって実施してきた実績から、B型肝炎ワクチンは安全で、新生児における身体の許容度も高いことが分かっています。副作用は大半の場合が軽度で、注射をした所が赤くなったり、腫れたりする程度です。B型肝炎ワクチンは授乳には影響を与えません。

母親がB型肝炎感染者の場合の赤ちゃんの治療

母親がB型肝炎感染者である場合には、赤ちゃんは出生時にワクチンの提供を受けるとともに、感染予防強化のため出生後12時間以内に「B型肝炎免疫グロブリン」と呼ばれる薬の提供を受けます。また長期的予防のためには、B型肝炎ワクチンのコースを完全に受ける必要があります。

母親がB型肝炎感染者の場合の赤ちゃんに対する追加検査

母親がB型肝炎感染者である場合には、赤ちゃんはB型肝炎ワクチンのコースを受け終わってから3ヵ月後に血液検査を受け、免疫があるかどうか確認する必要があります。該当者とかかりつけ医にはNSW州保健省からリマインダーレターが送られます。

